

施肥マニュアル（記入例）

事業実施主体（所在地）	農事法人〇〇〇〇〇〇〇（〇〇県〇〇市）
取組年度	令和５～７年度

導入した国内資源由来肥料	名称（種類）	有機ブレンドＡ（指定配合肥料）
	主な原料	牛ふん、食品残渣
	肥料成分量	窒素〇％、リン〇％、加里〇％
	名称（種類）	特選配合ペレットＢ（指定配合肥料）
施用量を減らした輸入依存肥料	主な原料	肉骨粉
	肥料成分量	窒素〇％、リン〇％、加里〇％
	名称（種類）	高度化成Ｃ（化成肥料）
	肥料成分量	窒素〇％、リン〇％、加里〇％

農作物、ほ場の種類、国内資源由来肥料の施放量	農作物	水稻（品種：〇〇〇〇）
	ほ場の種類	水田（土壌分類：低地土）
	国内資源由来肥料の施用量	有機ブレンドＡ：100kg/10a 特選配合ペレットＢ：80kg/10a
導入した国内資源由来肥料を施用にするに当たっての留意点	元肥や穂肥として化成肥料「高度化成Ｃ」を施用してきたが、基肥を「有機ブレンドＡ」に、穂肥を「特選配合ペレット」に置き換えた。 （１）有機ブレンドＡ 取組初年度に 90kg/10a 施用したが、初期生育が劣る傾向を示したため、次年度から 100kg/10a に増量したことで良好な初期生育が得られた。 （２）特選配合ペレットＢ 肥料メーカーの説明どおり、施用量は 80kg/10a で水稻は良好な生育を示した。しかし、「高度化成Ｃ」と比べて肥料成分の効き方が若干遅いため、１週間程度早く施用する必要がある （３）まとめ 初年度の栽培実証では、「有機ブレンドＡ」と「特選配合ペレットＢ」の性格を把握していなかったため、やや収量が減少したが、次年度から施用方法を工夫したことで、従来と同等の収量を得ることができた。	

その他（資料等）	【導入した国内資源由来肥料】 有機ブレンドA (写真) 特選配合ペレットB (写真) (株式会社ABCウェブサイト) https://www.abcdefg.co.jp/product/index.html 【導入した肥料散布機】 株式会社XYZ製 ブロードキャスターXYZ-BC3000 (写真) (株式会社XYZウェブサイト) https://www.abcdefg.co.jp/product/index.html 【栽培暦】 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2">5月</th> <th>6月</th> <th colspan="2">7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="border: 1px solid black;">元肥</td> <td>移植</td> <td></td> <td>中干し</td> <td style="border: 1px solid black;">穂肥</td> <td></td> <td>収穫</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※ 穂肥の施用時期が、「高度化成C」より1週間程度早い。 【肥料散布の様子】 (写真) (写真)	5月		6月	7月		8月	9月	10月	元肥	移植		中干し	穂肥		収穫	
	5月		6月	7月		8月	9月	10月									
元肥	移植		中干し	穂肥		収穫											
問い合わせ先	農事法人〇〇〇〇〇〇〇〇 電 話: 〇〇〇(〇〇〇)〇〇〇 電子メール: 〇〇〇@〇〇〇. 〇〇. 〇〇																